

社会貢献・地域連携活動【2024 年度実績】

帝京平成大学では、大学の基本理念の一つとして「専門の学術を深く研究して成果を世界的に発信するとともに、大学の人材、施設を活用して地域社会との交流と貢献に努め、人類の発展に寄与する」と掲げております。

この理念を実現するべく、本学を構成する四つのキャンパスでは、社会貢献活動、特に各地元自治体との協力体制を軸とした地域連携活動に力を注いでおります。

2024 年度における各キャンパスでの活動状況を以下にまとめましたので、ご高覧賜りますようお願いいたします。

1. 池袋キャンパス 2024 年度 豊島区との連携状況報告
2. 中野キャンパス 2024 年度 中野区との連携状況報告
3. 千葉・ちはら台キャンパス 2024 年度 市原市との連携状況報告

豊島区・帝京平成大学との協定に基づく連携事業

豊島区と区内大学との連携・協働に関する包括協定

締結日：2007年11月19日（再締結：2023年11月2日）

概 要：「街全体をキャンパスに！」のコンセプトに基づき、①各大学の個性を活かした人的・知的・物的資源の交流、②教育機能・福祉の向上、③世界に開かれた魅力と活力にあふれる豊かな地域社会の創造を目指した連携・協働が謳われている。

豊島区と本学との連携・協働の基礎となっている。

- 内 容：1. 教育機能の向上
2. 各大学の個性を活かしたまちづくりの推進
3. 人的、知的、物的資源の交流

豊島区立図書館と帝京平成大学メディアライブラリーセンターとの図書資料の相互貸借に関する協定

締結日：2009年9月30日

概 要：豊島区立図書館と帝京平成大学メディアライブラリーセンターとの間で、それぞれが保有する図書資料の相互貸借を行う。

- 内 容：1. それぞれが保有する図書資料を、50冊以内の冊数でかつ30日以内の期間において、相互に貸出を行う。
2. 区立図書館利用者は帝京平成大学の図書資料を、図書館内において15日間閲覧・複写することができる。帝京平成大学利用者は、区立図書館の図書資料を15日間借りることができる。

帝京平成大学と豊島区教育委員会との「としま教育ネットワーク事業」

締結日：2010年1月29日

概 要：帝京平成大学の学生が、豊島区の所管する幼稚園・小学校・中学校の教育活動のために連携・協力を行う。

- 内 容：1. 豊島区学校における教科指導補助、学校教示における指導補助、特別な支援を必要とする児童・生徒等への学習補助
2. 豊島区教育委員会が主催する研究活動及び研修への参加
3. 豊島区教育委員会と帝京平成大学が協議によって定めるとしま教育ネットワーク事業の内容に即した活動

災害時における相互協力に関する協定

締結日：2008年3月11日

概 要：防災並びに災害発生時において、相互に協力を行う。

- 内 容：1. 豊島区は帝京平成大学内に戸別受信機を設置し、災害時に情報提供を行う。
2. 帝京平成大学は防災行政無線の屋外拡声子局の設置場所を提供する。
3. 災害時に豊島区が避難所を開設する際、帝京平成大学は予め定められた学内施設をその場所として提供する。
4. 帝京平成大学は教職員・学生の専門技能をもって、学内の施設を活用して救護活動にあたる。

帝京平成大学「沖永記念ホール」の地域利用に関する協定

締結日：2008年6月5日

概 要：豊島区が受け付けた沖永記念ホールの利用申請（豊島区が申請する利用を含む）について、帝京平成大学が同施設の貸出を行う。

- 内 容：1. 利用申請者からの申請受付を豊島区が行う。
2. 豊島区との協議に基づき、帝京平成大学がホールの貸出を行う。
3. 当該利用について、その施設利用料を1催事当たり10万円とする（土日祝日の終日利用の場合78万円のところ。ただし、備品・設備利用料、人件費は対象外）。

豊島区と学校法人帝京平成大学との間の帰宅困難者対策の連携協力に関する協定

締結日：2013年12月18日（再締結：2023年3月31日）

概 要：災害に伴い発生した帰宅困難者に対して豊島区が行う応急対策活動への帝京平成大学の連携協力に必要な事項を定める。

- 内 容：1. 帰宅困難者発生時における帝京平成大学における一時滞在施設の開設。
2. 帝京平成大学の備蓄品を可能な範囲で帰宅困難者に対し提供する。
3. 一時滞在施設の運営に必要となる備蓄物資・資機材保管用の場所の提供。
4. 豊島区が行う帰宅困難者対策訓練実施への協力・参加

2024年度連携報告



1. 生涯学習・公開講座

豊島区・帝京平成大学共催 公開講座 （としまコミュニティ大学）

豊島区と区内8大学との包括協定により、協働して事業展開している人づくり・活動づくり・地域づくりのための総合的な学びの場。2024年度は、動物と人の予防医学や、自宅で行える健康体操、日常生活や対人支援で役立つ講座など、本学の特色や教員の専門分野を生かした講座を実施した。



2. 専門的人材の提供

教員の派遣

本学では、医療の各分野について深い知識と多彩な経験を有する教員を、豊島区など地域の要請に基づき外部委員会の委員や、講演会等の講師として派遣することで、地域の健康増進への取組等に貢献している。



<2024年度実績>（抜粋）

豊島区就学相談委員会 委員
豊島区自殺・うつ病の予防対策委員会 委員
豊島区保健福祉部障害福祉課（精神科専門医・研修講師）
豊島区教育委員会事務局教育部（研修会講師）
豊島区区民部地域区民ひろば課（講座講師）
豊島区保健福祉部高齢者福祉課（訪問リハビリテーション支援）
豊島区リハビリテーション従事者連絡会（リハビリテーション指導）

豊島区事業への参画

- ・豊島区国際アート・カルチャー都市構想
学長 沖永 寛子 特命大使特別顧問就任（2016年から）
- ・トキワ荘関連施設整備への寄附
- ・豊島区観光協会
顧問：沖永 寛子 学長
評議員：境 健 教授 観光経営学科 学科長
- ・豊島区生活安全協議会 セーフコミュニティ推進協議会 総合高齢社会対策推進協議会
・「グリーンとしま」再生プロジェクト
- ・IKE BUSサポーター
- ・豊島区施行90周年実行委員会 区民実行委員会顧問

3. キャンパスの特色を活かした貢献

帝京池袋接骨院

開院：2008年6月2日

ヒューマンケア学部柔道整復学科の実習施設として池袋キャンパスの開設に合わせ設置。柔道整復学教育及び研究のための施設であるとともに、一般の患者様を受け入れる治療施設でもある。



帝京池袋鍼灸院・鍼灸臨床センター

開院：2008年6月2日

ヒューマンケア学部鍼灸学科の実習施設として池袋キャンパスの開設に合わせ設置。鍼灸学教育及び研究のための施設であるとともに、一般の患者様を受け入れる治療施設でもある。



帝京平成大学臨床心理センター

池袋キャンパスでの開設：2008年度

2005年に大学院健康科学研究科臨床心理学専攻の附属実習機関として、臨床心理センターに改組。池袋キャンパスの開設に合わせて移転。2011年より、大学院臨床心理学研究科（専門職学位課程）の附属機関となり、豊島区・板橋区2か所に施設を有していたが、2020年2月末に豊島区一か所に統合された。臨床心理士・公認心理師養成のための実習施設であるとともに、地域の一般の皆様のための問題に対する相談をお受けし、カウンセリングを行う施設でもある。

帝京サンシャイン前接骨院

開院：2019年12月9日

ヒューマンケア学部柔道整復学科の実習施設として池袋キャンパス1号館に設置。柔道整復学教育及び研究のための施設であるとともに、一般の患者様を受け入れる治療施設でもある。主な治療法として手技療法・物理療法（対外衝撃波、TECNOSix等を完備）、運動療法を行う。また保険診療をはじめ、鍼灸治療やトレーニングを組み合わせた自由診療、トレーニングのみのご来院も可能となっており（トレーニングルーム完備）多くの患者様にご利用いただいている。



としまテレビでの健康情報番組

番組名 帝京池袋接骨院「原口力也のイキイキ帝京池袋接骨院」

放送開始：2016年8月22日

豊島区の情報提供番組「としま情報スクエア」の中で、毎月1回、帝京平成大学ヒューマンケア学部 柔道整復学科・原口力也准教授がホストとなって、毎回1つのテーマを取り上げ、からだやケガのこと、トレーニングについてやさしく解説する健康情報番組である。

豊島区発達障害者心理相談事業

事業の開始：2014年度から
発達障害者及び発達障害に起因した社会生活上の困難を主訴とする区民及びその家族が、その問題の軽減・解決のために本学臨床心理センターの心理相談事業を利用した場合、豊島区が相談料の一部を補助する事業。

補 助 額：1回の相談料に対して2,000円を補助

年度	対象利用者数（実数）	年間延べ利用回数	補助金交付額
2020年度	10人	103回	206,000円
2021年度	15人	169回	338,000円
2022年度	13人	135回	270,000円
2023年度	19人	221回	442,000円
2024年度	15人	179回	358,000円

4. 学生による地域貢献

豊島区地域包括センターでのボランティア

健康メディカル学部 作業療法学科では、例年、豊島区の高齢者施設や区民ひろばで開設される「ひろば祭り」で学生がボランティア活動に参加している。



ごみゼロデー

毎年5月30日は530（ごみゼロ）にちなみ、全国各地でごみ拾いを行う行事「530（ごみゼロ）運動」が実施されている。毎年、豊島区で実施された「ごみゼロデー」に参加し、教職員・学生でごみ拾い等の清掃活動に参加している。



としまスポーツまつり&防災フェス

豊島区主催の「としまスポーツまつり&防災フェス」に医療科学科救急救命士コースと柔道整復学科が参加した。来場者へ心肺蘇生法やAEDの使用法、災害時に身の周りのものを使用した応急処置法等を説明会や実演会をとおして参加者へ紹介した。（10月14日開催）



ハートプロジェクト

事業の開始 2014年6月

豊島区における若年層の自殺抑制・防止を目的とした、池袋保健所と地域多職種および大学院臨床心理学研究科との協働事業。

<2024年度 活動内容>

- ①中高生等とした児童厚生施設である「ジャンプ東池袋」において「若者相談会」を8月（3日間）に実施し、学生述べ4名が参加した。
②授業内で学生が池袋保健所職員による若者のうつ自殺についての講義を受講し、意見交換を行った。
③統計データに基づく豊島区の自殺の実態把握や、自殺未遂支援に係る事例紹介と児童・生徒のSOSの出し方教育についての意見交換を行う「豊島区自殺・うつ病の予防対策委員会」（8月、2月）に本学教員が出席した。

豊島消防団

健康メディカル学部 医療科学科 救急救命士コースでは、豊島消防団に有志の学生が在団（2024年度は44名）し、防災指導や各種訓練に従事することで、地域の防火防災活動に寄与している。
救急救命士コースでは、2019（令和1）年に東京消防庁豊島消防署より「消防団協力事業所表示制度」への申請要請があり、「消防団協力事業所表示証」の交付を受けるなど社会貢献に努める学生の功績が高く評価されている。



5. インターンシップ

としま教育ネットワーク事業

「としま教育ネットワーク事業」に関する覚書に則り、人文社会学部児童学科小学校・特別支援コースの学生が、豊島区の小学校において先生方の教育の支援を行いながら、教育者を志す者としての教育現場での貴重な経験を得ている。

概 要

人文社会学部児童学科1～2年生を対象とした実習「学校インターンシップ（旧称：学校ボランティア）」の中で、1校あたり1～4名の学生が豊島区立小学校の教育現場において先生方の教育支援（授業補助やプリント教材印刷等の授業準備、特別な支援を要する児童への付添など）を行う。実習を離れて、ボランティアとして経験を積ませていただくケースもある。

2024年度 参加学生数：18人

6. 施設貸出

沖永記念ホールの貸出

帝京平成大学の建学の精神を具現化する施設として、2008年4月の池袋キャンパス開設に合わせ設置された。客席数1,005席を擁するプロセニウム形式の多目的ホールで、講義や卒業研究発表会等の学内での催しにて使用するほか、豊島区や他の教育機関をはじめ広く一般にも貸出を行っている。2008年度「沖永記念ホール」の地域利用に関する協定に基づく貸出を行っている。



集会室の提供

区民の福祉の増進及び文化生活の向上に寄与することを目的とした多目的施設。定員90名の本施設は、2008年に池袋キャンパス本館地下1階に設置された。「帝京平成大学の集会室に関する協定」に基づき、日常的な管理・運営は公益社団法人豊島区シルバー人材センターが行い、区内を中心とした地域活動団体様の活動の場として、勉強会や集会などにご利用いただいている。

7. 防災

帰宅困難者発生時の一時滞在施設の開設・運営

- 平常時 → ①一時滞在施設運営に必要となる備蓄物資・資器材等の保管場所の提供
②豊島区が行う帰宅困難者対策訓練への協力・参加
災害時 → ①帰宅困難者に対する一時滞在施設の開設・運営（受入が可能な場合）
②帰宅困難者に対する備蓄飲料水・食料等の提供（提供が可能な場合）

帰宅困難者発生時の一時滞在施設開設・運営訓練の実施

東京地方に震度6弱の地震が発生し、鉄道運行中止のため帰宅困難者が多数発生したという想定のもと本学職員、豊島区職員及び周辺事業者が参加し、豊島区主催の一時滞在施設開設・運営訓練を行った。当日は約100名が参加し、英語や中国語を用いた情報提供やアナウンスを行い、避難者に対して正確な情報の提供に努めた。また、避難者の受け入れから備蓄品の配布、滞在スペースへの誘導、情報提供、そして閉館に至るまでの一連の流れを確認し、実践した。（1月15日開催）



豊島区が行う防災訓練・会議等への参加・協力

- ・情報通信訓練
- ・池袋駅周辺混乱防止対策協議会への参加
- ・豊島消防懇話会への参加
- <訓練内容>
- ・豊島区災害対策本部・現地調整連絡所との情報通信訓練
- ・池袋駅周辺混乱防止対策協議

中野区・帝京平成大学との協定に基づく連携事業

警察大学校等跡地地区のまちづくりに関する覚書

覚書締結日：2008年10月22日

概要：2013年4月の中野キャンパス開設に先立ち、中野の顔にふさわしい賑わいと環境が調和した安全なまちを実現するため、本学と中野区が相互に協力していく。

◎この覚書により中野区との連携がスタート

災害時における協力体制にかかる基本協定

協定締結日：2013年3月28日

概要：「警察大学校等跡地地区のまちづくりに関する覚書」に基づき、中野区域の総合的な防災拠点の形成に資するため、中野区と災害時における協力体制について定める。

※同時に、「災害時における協力体制にかかる実施細目」（帰宅困難者一時滞在施設・防災無線）を定める。

中野区教育委員会と帝京平成大学との連携に関する協定

協定締結日：2013年5月7日

概要：本学と中野区がその機能及び人的・知的資源を相互に活用して連携協力を図り、地域における教育及び大学における教育の発展充実に寄与していく。

中野区と帝京平成大学との相互協力に関する基本協定

協定締結日：2014年3月27日

概要：中野区との包括的な連携により、相互の人的、知的及び、物的資源の交流・活用を図り、まちづくり、人材育成、教育、文化、産業育成等の分野で相互協力し、地域社会の発展と人材の育成に寄与する。

2024年度連携報告



1. 生涯学習・公開講座

健康茶房

薬学部の学生を中心に活動している地域連携部の学生や薬学部教員、協賛企業が協働し、中野区民の健康増進をテーマとした交流の場を創出している。来訪者には健康茶を提供し、「薬学」に関するセミナーなどを織り交ぜながら、楽しい時間を過ごしている。



夏休み親子薬学教室

薬学部では、地域の小中学生と保護者の方を対象に、夏休みの自由研究にも役立つイベントとして開催している。薬用植物が身近なお薬として現代医療に貢献していることを知ってもらうため、実際に漢方薬の調剤や味見などを体験してもらう。



THU交流ひろば「あいあい」

看護学研究科とヒューマンケア学部看護学科の合同でTHU交流ひろば「あいあい」を開催している。ミニ講義や健康チェック、グループディスカッションなどを通じて、学生や教員と健康に関心のある地域住民が交流できる機会を提供している。



犯罪被害者週間行事 講演会

人間文化学科と中野区の共催にて、犯罪被害者週間行事として講演会を開催し、犯罪被害者の置かれている状況に関する普及啓発活動を実施している。講演会と同時にパネル展やコーヒーの試飲も実施している。



中野区薬剤師会共催 区民講座

薬学部と中野区薬剤師会の共催にて、薬を正しく使い、健やかな日々を送るために必要な事柄について、公開講座を開催している。また、中野区薬剤師会による「お薬相談」、中野区中野地域包括支援センターによる「介護や医療に関する相談」を実施している。



2. 専門的人材の提供

保育実務研修への講師派遣

区内の保育園・幼稚園分野主催の保育実務研修を実施し、保育実務研修講師として本学教員を派遣している。

卒後教育研修会の実施

中野区薬剤師会、中野区医師会や東京都薬剤師会と連携し、地域の現役薬剤師を対象とした「卒後教育研修会」を実施している。無菌調剤室などの教育設備を使用し、本学教員が講師となりフィジカルアセスメントや無菌調製などの実地研修を行っている。

なかの生涯学習大学への講師派遣

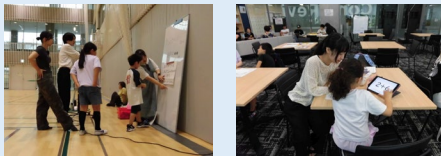
区内の高齢者を対象として、中野の特色や歴史などのほか、地域での活動に向けた知識や技術を学ぶ「なかの生涯学習大学」の講師に本学教員を派遣している。

中野区保健師の人材育成

中野区保健師や関連職員を対象に、新興・再興感染症等に関わる助言や指導、中野区保健師現任教育に関わる調査・分析を実施し、研修講師として本学教員を派遣している。

帝京平成大学中野子ども楽舎

中野区教育委員会と連携し、学校での学びや対人関係にまつぎや不安を感じている低学年児童に対して、本学教員による教育的支援を実施している。学び方や関わり方を習得させるとともに、自尊感情を向上させることで、不登校の予防を図る。また、子どもの学ばせ方・関わり方に困っている保護者へのサポートを行い、各家庭における支援の充実を図る。



その他、中野区への本学教職員の派遣

<2024年度実績>（抜粋）

中野区立中学校用教科用図書選定調査委員会委員（委員長）
中野区就学支援会議専門家委員
中野区特別支援教室判定会議専門家委員
中野区教育マスター研修会講師
中野区部活動検討委員会講師
中野中学校区 地域学校運営協議会委員
中野区研究保育研修講師
中野区立中央図書館イベント講師
中野区私立幼稚園等巡回相談事業実施に伴う事例検討会委員
中野区自殺対策審議会委員
中野区災害弔慰金等支給審査委員会委員
中野区地域スポーツクラブ理事
中野区バリアフリー基本構想改定協議会委員
中野区社会福祉協議会評議員
中野区社会福祉協議会いきいき推進委員会委員

3. キャンパスの特色を活かした貢献

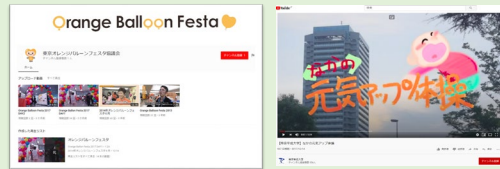
親子広場ブリブリキッズ・ユニバ

学内のプレイルームを、就園前の幼児と保護者を対象とした親子広場「ブリブリキッズ・ユニバ」として開放し、児童学科保育・幼稚園コースの教員や学生と一緒に遊べる場を提供している。乳幼児世帯の親子支援として、地域の方々の子育てを応援している。



中野イベント紹介ビデオの制作

人間文化学科メディア文化コースの学生により中野区内のイベント等の動画を制作。区のホームページ等による動画配信などで中野の魅力を広く発信している。



薬物乱用防止推進に対する支援

薬物乱用防止の推進を目的として、本学学園祭において、区内の中学生から募集した薬物乱用防止ポスター・標語作品を展示。応募作品の中から最優秀賞や学長賞、優秀賞を選出し、表彰をしている。同時に、地域連携部の薬育委員会を中心とした薬物乱用防止の薬育が行われている。



食育の推進

健康栄養学科では、各世代の食育推進の支援として、各ライフステージに向けた食育リーフレット（6種）を作成し、普及啓発を実施している。また、食生活改善普及運動月間（9月）に、レシピコンテストにおけるメニューを考案。中野区ホームページ及びパネル展で投票を行われ、健康栄養学科の学生が考案したメニューが得票数1位で最優秀賞を受賞した。獲得票の多いレシピは、中野区役所1階カフェテリア「ナカノヤNYAcafe」でメニュー提供された。



薬学研究科との連携事業

薬学研究科では、中野区から「令和2年度(2020年度)暮らしの状況と意識に関する調査」のデータの提供を受け、中野区における社会的孤立の実態とその問題点についての解析を行い、社会的孤立に繋がる要因や特徴、問題点を明らかにする。

4. 学生による地域貢献

ナカノ・キッズフェス

児童学科の学生が主体となり企画・実施して、中野セントラルパークで開催される地域交流や地域教育型の子供向けイベント「ナカノ・キッズフェス」に出店・参加している。



中野にぎわいフェスタ

児童学科の学生が地域活性化・産業振興イベント「中野にぎわいフェスタ」で子ども向けイベントを開催している。



「ゴミゼロデー」キャンペーン

毎年5月30日の「ごみゼロの日」にクリーンキャンペーンが実施されており、中野駅周辺の美化清掃活動に参加している。



オレンジリボンキャンペーン

人間文化学科では、中野駅前で児童虐待防止にかかる普及啓発グッズを配布するほか、本学学園祭において資料の展示やアンケートを実施するなど、児童虐待防止推進月間の取り組みに参加している。



RUN伴（ランとも）

認知症への理解を深めることを目的とした啓発イベント「RUN伴」の運営に、ヒューマンケア学部看護学科の学生が参加している。また、チアダンス部は中野区役所に設置されたステージでパフォーマンスを披露した。



「薬育」の実施

地域連携部の活動の一環として、区内等の小・中学校において、学生による医薬品の適正使用や薬物乱用防止に関する教育、食育、感染予防をふまえた健康な身体をつくるための教育をおこなっている。



高齢者の見守り訪問

高齢者の見守りとお困りごとの相談を目的とした在宅訪問を行う町会活動に、地域連携部が参加している。町会の方々と一緒に個人宅を定期的に訪問し、声かけや健康支援を行っている。

5. インターンシップ

教育インターンシップ（学校ボランティア）及び教育実習についての連携協力

2024年度実績	児童学科		経営学科	
	実施小学校	12校	実施中学校	3校
	参加学生	27名	参加学生	3名

中野オレンジバルーンフェスタ

学生に中野地域の医療介護を体験してもらうために、本学教員と医師会、歯科医師会、薬剤師会、訪問看護、ケアマネージャーが一丸となり、インターンシップ（職業体験）を実施している。学生によるインターンシップ体験内容の発表会や、中野地域で活躍する医療・介護者と学生が議論を行う「対話型シンポジウム」を開催している。



中野区都市観光資源の発信

ベトナム・インターンシップでの海外イベント「ジャパンベトナムフェスティバル（JVF）」において、外国人観光客誘致を目的とした中野区の魅力のPR活動をおこなっている。



6. 施設貸出

中野区主催イベントへの会場として施設を開放

中野区各分野主催の区民向けイベントについて本学施設を開放している。イベントによっては、関係学科の学生も参加し、サポートを行う。

<2024年度実績>

中野区小学生学習支援 ドローン講座
薬物乱用防止中野区民大会
お薬相談、介護や医療に関する相談
中野区立小学校によるキャンパス見学
中野特別支援学校特別支援教育研修会

7. 防災

災害時における中野区との連携

- 施設の提供等
 - 帰宅困難者の一時的な滞在施設としての施設の提供及び運営
 - 中野区が指定する地域の避難所が何らかの理由で使用が困難になった場合等における臨時避難所としての施設の提供及び運営
 - 中野が設置する防災無線設備に必要な設置場所、付属設備及びその他工作物の提供
- 避難所等における学生ボランティア活動への協力支援
- その他の協力要請事項

市原市・帝京平成大学との協定に基づく連携事業

市原市と帝京平成大学との連携協力に関する包括協定

締結日：2016年（平成28年）4月

概 要：市原市と本学が相互の資源の交流・活用を図ることにより、さまざまな分野において包括的に連携協力し、地域社会の発展と人材の育成に寄与することを目的としている。

内 容：次に掲げる事項について連携協力する。

- (1) 地域の活性化、まちづくりに関すること
- (2) 人材育成に関すること
- (3) 教育・学術・文化振興に関すること
- (4) 健康・医療・スポーツに関すること
- (5) 地域産業の振興に関すること
- (6) その他必要と認める事項

市原市教育委員会と帝京平成大学との連携に関する協定

締結日：2008年（平成20年）11月

概 要：市原市と本学がその機能及び人的・知的資源を相互に活用して連携協力を図り、地域における教育及び大学における教育の発展の充実に寄与することを目的としている。

内 容：次に掲げる事項について連携協力する。

- (1) 学校支援ボランティアに関すること
- (2) 教育実習に関すること
- (3) 免許状更新講習に関すること

2024年度連携報告



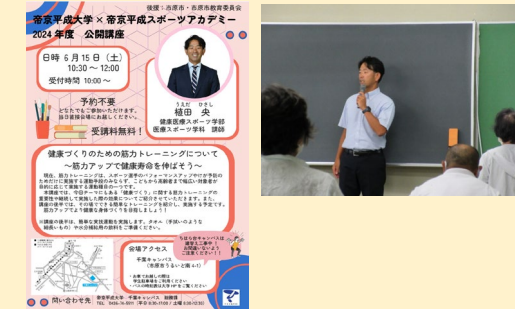
1. 生涯学習・公開講座

帝京平成大学×帝京平成スポーツアカデミー 公開講座

（市原市・市原市教育委員会 後援）

健康・医療・スポーツをテーマとした市民向け講座を開催し、市民の健康やスポーツへの関心を高めることを目的としている。

2024年度も全6回実施し、延べ225名が参加した。



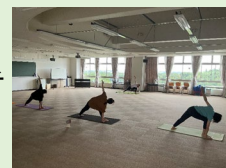
帝京平成スポーツアカデミー （総合型地域スポーツクラブ）

創設：2013年度

THSA（帝京平成スポーツアカデミー）は、千葉キャンパスを拠点に学生や教職員、地域住民の方々が運営している。教員・学生が指導するプログラムもあり、学生は実学の場として各プログラムの指導者として活躍している。

主なプログラム

- ・Jr. クライミング教室
- ・シニアウォーキング
- ・ピラティス
- ・Jr. サッカースクール
- ・HIP・HOP
- ・ヨガ
- ・骨盤アジャスト&ストレッチ
- ・テニス
- ・親子で楽しむ体づくり教室



2. 専門的人材の提供

市原市の各種協議会等の委員への本学教員派遣

市原市立中央図書館協議会
市原市いじめ問題再調査委員会
市原市都市計画審議会
市原市スポーツ推進審議会
市原市教育委員会事務の点検及び評価
市原市地域包括支援センター運営協議会
市原市介護保険事業推進協議会
市原市部活動の地域移行に係る検討会議
市原市スポーツ指導者の育成に係るプログラム等作成部会委員
市原市公園・体育等施設指定管理者選定審査会委員

3. キャンパスの特色を活かした貢献

市原市消防職員体力維持プログラム

市原市消防局からの依頼を受け、医療スポーツ学科の教員が、個人に合った体力維持トレーニングの指導をした。定年引上げによる加齢に伴う身体機能の低下が職務遂行に支障をきたすことを踏まえ、持続可能な安全かつ効率的な職場活動による消防力の維持を目的として実施され、全職員を対象とした体力測定も実施された。



大学とのスポーツ連携事業 （市原市スポーツ推進計画）

2017年度より大学のスポーツ知財を活かして、市原市との連携協力に関する包括協定及び市原市推進計画に基づいた「大学とのスポーツ連携事業」として市原市と協働で毎年実施している。

2024年度には、パラスポーツの体験を通じて、年齢や性別、国籍、障がいの有無を超えた参加者同士の交流を図る「第3回 パラスポーツ交流フェスタinいちはら」を開催した。



市民クラブVONDS市原との連携事業

2024年3月15日に株式会社VONDS市原と本学との連携協力に関する包括協定を締結した。

第58回関東サッカーリーグ公式戦ではVONDS市原FCの主催試合にて健康医療スポーツ学部が看護班として協力した。

看護班を担当したのは、健康医療スポーツ学部にて日本スポーツ協会公認アスレティックトレーナー取得を目指す学生有志が行った。



いちはらSDGsアワード2024

「いちはらSDGsアワード」は、世界に誇れる「SDGsのシンボルとなるまち」の実現を目指し、市原市SDGs宣言企業・団体による県内初の表彰制度で、SDGs達成に向けた先進的な取り組みに表彰している。

「いちはらSDGsアワード2024」では、パラスポーツサポート部が優秀賞を受賞。また医療スポーツ学科の教員が奨励賞を受賞している。

「いちはらSDGsアワード2024」では、パラスポーツサポート部が優秀賞を受賞。また医療スポーツ学科教員が奨励賞を受賞している。



市津地域×大学連携ワークショップ

市津地域住民と大学が連携し、地域の魅力や課題への気づき、参加者が自ら考え新たな発想へと繋げる足掛かりとして2023年度からワークショップが実施されている。

今年度は、健康医療スポーツ学部 リハビリテーション学科 作業療法コースの教員、学生を中心に「地域と学ぶ～防災ワークショップ～」を実施した。企業の方にも運営にご協力いただき、地域住民を含め総勢70名が参加した。



帝京市原接骨院の設置

開設：2007年4月

健康医療スポーツ学部柔道整復学科の実習施設としてちはら台キャンパスに設置。

柔道整復学教育及び研究のための施設であるとともに、一般の患者様を受け入れる治療施設でもある。



4. 学生による地域貢献

児童虐待防止啓発イベント

「子どもの権利」と「オレンジリボン」をテーマに市原市との協働イベントとして開催した。看護学科の学生が企画段階から参加し、学生学びを深める機会となった。



エンジン02 in 市原

「エンジン02 in 市原」は昨年度開催した市制施行60周年記念事業「エンジン01 in 市原」を、一過性のイベントとして終わらせることなく「学びのまち」のレガシーとして引き継いでいくため、後継イベントとして開催された。

今年度は、帝京平成スポーツアカデミーの学生指導者が、プログラムの一つである「親子で楽しむ体づくり教室」の講師として参加した。



市津市民まつり

地域貢献活動の一環として、リハビリテーション学科作業療法コースの学生と教員がイベントブースを運営。市原商工会議所や近隣の商店会のサポートを受け、地域の子どもたちと触れ合う機会をもった。

作業療法の紹介の他、お祭りに遊びにきた子どもたちに向け、缶バッチ作りとキッズネイル体験コーナーを運営した。



ちはら台文化祭

ちはら台コミュニティセンターで開催された「令和6年度 ちはら台文化祭」に医療スポーツ学科動物医療コースの学生が「ペットと防災」をテーマにポスターや防災グッズの展示を行った。



「いちはら若者みらい会議」および 「いちはら女性みらい会議」への参加

若者・女性が市原市の10年後の未来を想像し、「幸せを感じるまち」について対話し、今後のまちづくりに反映するための会議にリハビリテーション学科作業療法コースの教員1名と学生3名参加している。それぞれで会議でグループワークにより対話を行い、各地区のエリア別対話や若者みらい会議・女性みらい会議の参加者が一堂に会して「10年後に目指すまちの姿」について発表する全体会では市原市長も参加した。

その他の活動

【女子サッカー部】

- ・市原市内の幼稚園、保育園のサッカー巡回指導
- ・市原市内の梨農家ボランティア
- ・市原市内クリーン活動
- ・市原市内イベントボランティア（打ち水大作戦、SDGs運動会）



【硬式野球部】

- ・ちはら台地区清掃活動
- ・ちはら台市民夏祭り
- ・トンエコマラソンの運営協力



5. インターンシップ

教育実習

本学学生が行う教育実習の市原市内小中学校・高等学校での受け入れ。

2024（令和6）年度

教育実習3名 教職実践演習（保健師）8名

学校支援ボランティア

毎年幼稚園・小中学校で担任教員を補助し個別の支援を必要とする園児・児童・生徒への補助や学校行事等のサポートを本学学生が行う。

2024（令和6）年度 17名（昨年度25名）

6. 施設貸出

市原市スポーツ指導者講習会

市原地域救急業務メディカルコントロール協議会

第3回パラスポーツ交流フェスタinいちはら

7. 防災

学生消防団

市原市消防団規則の改正を受け、2022年10月1日付けで正式に市原市消防団学生部が発足。2024年度は、60名の団員が活動。火災予防週間には消防団車両で大学周辺を巡回して火災予防広報を実施している。

秋の火災予防フェアや救急フェアなどへの出向依頼に応じて、心肺蘇生法の指導や火災予防の広報に従事し、その他にも上総いちはら国府祭りでの消防PRやちはら台夏祭りでの消防・警備活動などにも参加している。

